



2020年度 総合薬学研究 卒業論文発表会開催

教務課

2020年7月27日（月）・30日（木）、8月5日（水）の3日間、創立130周年記念館にて6年次生の卒業論文発表会を開催しました。グローバル人材育成の一環として、全員が英語でのポスター作成・発表・質疑応答を行いました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1回あたりの発表者の人数を制限し、他年次学生及び海外学術交流協定校の教員や学生の参加を見合わせました。



また、発表者及び評価者は、マスクとフェイスシールドを着用し、発表や質疑応答を行いました。今回は、様々な制約の中での開催となりましたが、活発な意見交換が行われ、無事に終えることができました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

卒業論文発表会のスケジュールは次ページに記載しています。

CONTENTS

■ 特集

チャレンジ!!オープンガバナンス
全国第1位「Pharmatching(ファーマッチング)しておくれやす☆」・・・4

■ ご挨拶

新任・昇任のご挨拶・・・3

■ コラム

水中でぶつぶつ・・・9
卒業生からのメッセージ・・・12
私の薦める、私の一冊・・・13
学生相談室だより・・・17

■ イベント

2020年度 総合薬学研究 卒業論文発表会開催・・・1
2020年8月に「WEB OPEN CAMPUS2020」を新設しました・・・16

■ 報告

【寄稿】名誉教授授与にあたって・・・8
2020年度大学院の入学選考結果・・・8
第105回薬剤師国家試験の結果について・・・10
2019年度決算について・・・14
受賞・掲載・・・18
京都薬科大学奨学金寄附金芳名録・・・20

■ お知らせ

人事異動・・・8
京薬会だより・・・12
Library News・・・13

<卒業論文発表会のスケジュール>

日時		系	分野等
7/27 午後	12：30～13：00	準 備	
	第1部 13：00～13：40 13：40～14：20 (40分交代)	生命薬科学	細胞生物学 生化学 病態生理学
	14：20～14：50	休憩・ポスター貼替	
	第2部 14：50～15：30 15：30～16：10 (40分交代)	病態薬科学	病態生化学 臨床薬理学

7/30 午前	10：00～10：30	準 備	
	第3部 10：30～11：10 11：10～11：50 (40分交代)	病態薬科学	薬物治療学 薬理学 臨床腫瘍学
	11：50～13：00	休憩・ポスター貼替	
	第4部 13：00～13：40 13：40～14：20 (40分交代)	統合薬科学系	
7/30 午後		基礎科学	健康科学 物理学 薬学英语
		薬学教育	臨床薬学教育研究センター 情報処理教育研究センター
		附属施設	薬用植物園 放射性同位元素研究センター 共同利用機器センター
	14：20～14：50	休憩・ポスター貼替	
	第5部 14：50～15：30 15：30～16：10 (40分交代)	医療薬科学	薬剤学 薬物動態学 臨床薬学 臨床薬剤疫学

8/5 午前	10：00～10：30	準 備	
	第6部 10：30～11：10 11：10～11：50 (40分交代)	分析薬科学	薬品分析学 代謝分析学 薬品物理化学
	11：50～13：00	休憩・ポスター貼替	
	第7部 13：00～13：40 13：40～14：20 (40分交代)	生命薬科学	衛生化学 公衆衛生学 微生物・感染制御学
8/5 午後	14：20～14：50	休憩・ポスター貼替	
	第8部 14：50～15：30 15：30～16：10 (40分交代)	創薬科学	薬化学 薬品製造学 薬品化学 生薬学

新任のご挨拶



事務局
学生課（学生相談室）

主事 上野 みな子

2020年7月1日付で学生課学生相談室に入職致しました上野みな子と申します。

私は、精神保健福祉士・臨床心理士として、精神科医療福祉分野で約10年、慢性精神疾患を抱える方達を心理面や生活面からサポートする仕事に従事致しました。その後、約10年、総合大学の学生相談室にてカウンセリングや関係者の方々との連携協働、

メンタルヘルスに関する予防啓発業務等に携わってまいりました。

近年、個人や社会に大きな打撃を与える出来事が後を絶ちません。それに加え、日常生活では、ストレスという名の多くの重たい荷物を抱えて生きているという現実があります。そこで生じる様々な困難に対処するためには、心身ともに動ける状態の維持が必要不可欠です。皆様が抱える荷物を少しでも軽くできるよう、たくさんお話を聞かせて頂きたいと思っております。その中で、何が自分に出来るのかを問い続けながら精一杯業務に取り組んでまいります。皆様のご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



事務局
調達検収室

のぶひろ
室長 星野 展宏

2020年7月1日付けで室長を拝命いたしました。私は1994年4月1日に教務課主事として採用され、以来、入試広報課（現 入試課）、学生課、施設課、会計課（契約係）等で業務経験を積ませていただいております。

2017年7月1日からは、本学における契約事務の更なる適正化を図るため、従来、会計課が取扱ってきた契約・検収業務を専門に扱う部署として調達検収室が設置され、現在、同室スタッフとして「物品購入や業務委託に関する契約業務、本学が発注した物品や委託した業務が間違い無く納入・履行されているかを確認・検査（これを検収と言います）する業務」に従事しております。大学収入の大半を占める学生納付金や国の補助金が、適正・適切に使用され

ているかをチェックする部署として、責任の重さを日々痛感しながら業務に携わっております。

業務の性格上どうしても管理や指導といった側面があり、依頼先の希望・要望の実現には事実関係の正確な把握が必要不可欠です。「相談がしにくい」などということの無いよう、「依頼者の話をよく聴き、丁寧かつ迅速に、事実に基づく適切な対応」ができるよう、スタッフ共々心掛けております。

教育・研究活動に関する案件には、過去に聞いたことの無い専門用語や複雑な構造・構成が登場することがあり、確認や調査に時間がかかって依頼者をお待たせすることもあります。日々の研鑽や知識の蓄積が必須であることを、強く感じております。

大学活動全体の流れの一部（中継点）を担う当室業務が、上流から下流に向かい澱みなく流れる川のようにスムーズに流れることで、大学活動全体が充実・発展するよう微力ではありますが今後も努力していく所存です。

今後とも、皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

特集

チャレンジ!!オープンガバナンス2019

全国第1位「Pharmatching（ファーマッチング）しておくれやす☆」

東京大学公共政策大学院「情報通信技術と行政」研究プログラムが主催するコンテスト「チャレンジ!!オープンガバナンス2019」において本学の学生が参画するチームが全国1位を獲得しました。学生の他に、医師や薬剤師、IT企業社員等で構成されたチームで、地域の課題解決に向けて活動をしています。

本稿では全国1位を獲得したアイデアについて紹介するとともに、参画した学生の声や現在の活動状況についても報告いたします。

研究・産学連携推進室 武野 薫

Feature article.

■ チャレンジ!!オープンガバナンス2019について

東京大学公共政策大学院 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」教育・研究ユニット（STIG）、東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）および（一社）オープンガバナンスネットワーク（OGN）が共同主催するコンテストで、2016年度から開始され、2019年度が4回目の開催でした。2019年度は、全国41都市の自治体から、市民と一緒に考えたい地域課題（51課題）と関連データや情報が提示され、それに対し、56の市民チームが各自治体と連携して地域の課題解決に向けたアイデアをまとめて提出。そのうち12チームが最終審査に進出し、3月8日（日）のオンライン公開プレゼンテーションによる最終審査の結果、爆発的な連鎖力を持ち全国的な展開も期待できるアイデアが高く評価され、本学学生の参画するチームが第1位を獲得しました。



第1位を獲得し歓喜のメンバー



COG協賛会社より送られた副賞

チャレンジ!!オープンガバナンス2019（COG）の詳細についてはHPをご覧ください。
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2019/>



■ 概要

【チーム名】「Pharmatching（ファーマッチング）しておくれやす☆」

【アイデア名】「ICTの活用により市民と薬局・薬剤師と繋がり合う事ができ、身近に相談できる地域社会を実現する新サービス“Pharmatching（ファーマッチング）”」

【チームメンバー】京都薬科大学（森田貴子、横田如奈、相馬夏月、岡本未奈子）、ゆう薬局薬剤師、ウィングアーク1st株式会社（IT企業）社員、株式会社プラメドプラス代表取締役の内科医、京都市総合企画局総合政策室市民協働推進担当職員

■京都市が提示した課題

「市民による薬局・薬剤師等の活用推進（健康サポート薬局の普及）」
本課題の趣旨は以下のように説明されていました。

薬局は、保険調剤業務以外にも、相談対応や在宅医療への参加を通して地域住民の健康に貢献していくことが求められ、そのためにも、地域住民からの健康に関する相談を気軽に受けられる場所であることが望まれます。
しかし、地域住民にとって現在の薬局は処方せんを持って薬をもらいに行くだけの場所という認識が強く、処方せんが無ければ訪れにくい場所となってしまう。
一方、国に目を向けると、厚生労働省では平成28年度から、かかりつけ薬局・薬剤師の基本的な機能に加え、国民による主体的な健康の保持増進を支援する機能を備えた「健康サポート薬局」の基準を定めるなど、薬局の機能向上が図られています。
ここ京都市においても、地域住民が身近な健康相談の場として、近所の薬局・薬剤師等を活用しやすくするにはどうすれば良いか、皆様のアイデアをお待ちしています。

■コンテストまでの取り組み

上記の課題解決のアイデアを検討する市民チームに本学の学生にも参画してほしいとの京都市からの提案を受け、学生を募集し、4名の学生が参加することになりました。京都市は別途、市民として参加する薬剤師、医師およびIT企業社員を集めており、本学の学生と市民からなるチームが京都市と連携して半年近くにわたり協議を重ね、コンテストに臨みました。



チームが協議している様子

■チームが提出したアイデアの概要

「薬局・薬剤師をもっと身近に」をテーマに、“かかりつけ薬局・薬剤師の相談機能”が十分に発揮されていない状況を社会課題として解決に繋がりたいと考え、特に、高齢者数がピークを迎える2040年頃における「健康寿命の進展」の主役である現在壮年期の世代をメインターゲットに想定しました。
国民医療費の伸び・社会保障制度の持続可能性が問題とされる中で、ファーストアクセスの相談窓口として薬局・薬剤師が機能し、未病・予防も含めた生活支援のサポートを行うことが、地域包括ケアにおける連携体制・住民QOL（Quality of Life;生活の質）の向上と健康寿命の延伸に大きく寄与すると考え、ICTを活用したサービスをプラットフォームとして提供することで、“かかりつけの薬局・薬剤師を選びやすい”“薬剤師に相談しやすい”社会を実現し、地域住民の安心と健康に寄与することを目指して、以下の3つを柱に提案しました。

- ①位置情報付きWebサービスにより薬局機能情報を提供、地域における薬局機能・所属薬剤師の取得資格や得意分野などを可視化する。
- ②メッセージングアプリを活用した薬剤師との個別相談対応機能をプラットフォームに組み込む。
- ③ダイエットや身体作り、血圧・血糖値などのコントロール（生活習慣病予防）など中期的な健康サポートに関わる内容について薬剤師から継続的なコーチング的助言を受けることも可能とする。

すぐに病院に頼る社会から...
そう、
薬剤師さんに
相談しよう。
Pharmatching ファーマッチング
ICT活用により市民と薬局・薬剤師が身近に相談できる社会を実現！
あなたに合った
薬剤師が選べます！
継続的に
健康サポート！
あなたに合った
薬剤師が選べます！
継続的に
健康サポート！

	2019年度	2020年度	2021年度
実現に向けた プロセス	第1次計画	第1.5次計画	第2次計画
環境整備	薬剤師コミュニティ構築 （目標：2020）	薬剤師人材の確保 （目標：2020）	デジタルファーマシー （目標：2020） （目標：2020） （目標：2020）
システム 開発	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）
収益化	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）
行政 との連携	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）
大学機関 との連携	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）
他団体や 企業 との連携	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）	地域検索システム （目標：2020）

チームで作成したチラシ

■進捗状況

4月末には社会科学系を中心とする様々な分野の専門家からなるCOG事務局の先生方と意見交換を行い、(1) プレホスピタル・セルフメディケーションを定着させるための科学的根拠を精緻化する、(2) 理念に共感し、参加してくれる薬局・薬剤師の輪を広げていく、(3) ロールプレイ等を通じて患者の立場からサービスを客観的に見つめる、(4) 京都市役所へのデータ共有・管理の仕組み作り着手への期待といった、具体的なアドバイスをいただく機会がありました。これもCOGの特徴で、大変有意義な経験になりました。

コロナ禍のために、予定していたスケジュールどおりに進めることが困難な状況ではありますが、アイデアの具体化を目指して、月1回の頻度でWebによる定例会議を開催しています。

サービス内容のみならず、研修・学びの機会づくり、周知・啓発活動の実施方法、組織体制の在り方、人材や資金をいかに集めるか等、様々な課題を検討しています。サービス内容検討の一つとして、チーム内でメッセージングアプリを活用した個別相談も試行しているところです。

本活動を通じて、本学の学生は様々な立場の社会人の方々から学び、ともに議論し、さらに学生が社会人の方々に影響を与えることもできております。地域の課題解決に貢献するとともに、自らの成長に繋がる機会としても有意義であるようです。

■学生の声

最後に、参画している学生に活動内容について寄稿いただきましたのでご紹介いたします。

◇薬物動態学分野 4年次生 森田 貴子 あつこ

この活動の学生代表を務めさせていただいております。まずは、今回このように取り上げていただいたこと大変光栄に思っております。今回、この活動に関連して私が大切だと思った3つのことを皆さんにお伝えできればと思います。

まず第一に、「自分の当たり前が当たり前と思わない」ことです。本学は単科大学で、授業内容も専門的です。そのため、学生全体としてのコミュニティが狭く視野もそれに伴って狭くなりがちだと思います。私自身も大学に入るまで、非常に狭いコミュニティにいたので、大学で「自分の当たり前が当たり前」として通用しないことに戸惑いを隠せませんでした。しかし、部活や京薬祭実行委員での活動を通じて、様々な価値観に触れ一つずつ理解していくことで着実にステップアップする機会を得ることができました。学内の活動から学外の活動へ、本活動ではさらに多様な価値観に触れながら活動しています。対社会人かつ様々なバックグラウンドを持つ方々と議論をする。議論するにあたってやはり、「自分の当たり前が当たり前と思わない」ことを念頭に置くようにしています。意見が出たら、まずは容認態度を示すこと。これをするだけで本当に変わります。

次に、「とにかくやってみる」ということです。今回の件で言うと、ありがたいことに名誉な結果を得ることができました。しかし、いつもそうなるとは限りません。しかし、結果が出なかったとしても結果が出なかったという結果が出ます。そして、その結果は次に生かすことができます。この経験の繰り返しは、蓄

積されやがて自信につながります。そして、その自信は新たなことに踏み出す原動力になります。一步踏み出すだけで、好循環がうまれるのです。そして幸運なことに社会は学生に非常に優しいです。皆さんが思っている以上に。なんでもやってみることができるというのは学生の特権です。ハードルが低い学生のうちにぜひいろんなことにチャレンジしてほしいと思っています。本学では、学業で忙しくなりがちな学生でも積極的に活動するためのサポートが手厚く私自身もいつもお世話になっています。この手厚いサポートは単科大学ならではのと思っています。

最後に、「薬学を学んでいる意識を持つ」ということです。これは、未来の医療人としてとか、常に勉強しろとか、そういう類のことではなくて、薬学が社会にどのように必要とされているか、貢献できるかという視点を持つということです。

課外活動に限らず普段の生活でも、この視点を持つだけでこんなところでも需要があるんだと気づかされることが多々あります。薬学は学問領域として守備範囲が広いので6年という長い学生生活を通じて自分のやりたいことを見つけられると思います。だからこそ、視野を狭めることなく自分のやりたいことを探しに出かけてみてほしいと思います。

最後になりましたが、私たちの活動を支えてくださっているすべての方々にこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。

◇共同利用機器センター 4年次生 横田 如奈

薬事日報に特集記事を載せてもらったり、チラシを挟んだりして、Pharmatchingを徐々に広報し始めたころ、私たちの活動に興味を持って自分からメールをくださった薬剤師さんがいました。自らの力をそこで役立てられると思ったら、知り合いの紹介などがなくても単身乗り込むという姿勢に、引っ込み思案の私は感銘を受けました。忙しい社会人でも広くアンテナを張って能動的に動かれています。自由の多い学生の今、将来のための練習だと思って、いろんなことにトライしてみたい手はないです。

なんでこんな話をしたかという、今後追加で学生メンバーを募集したいな～これ読んでる人参加してほしいな～という魂胆があるからです。KPU^{NEWS}の一記事をこんなに読み込んでいるあなたは、すなわちアンテナをよく張っている人です。そんなあなたにぜひメンバーになってほしい！

現在は、月1～2回のオンライン会議をしています。

◇3年次生 岡本 未奈子

COGに参加した事で社会に目を向けるきっかけが出来、視野が広がりました。そして、私の医療人魂は大きく成長しました。

昨年10月にチームが発足し、チームメンバーである調剤薬局の薬剤師、内科医、公務員薬剤師と出会いました。私は初めて、現場で働く医療人の「健康増進に寄与したい！」という熱い想いを肌で感じました。自分も将来、医療人になるのだということを再認識させられた瞬間でした。職種の違いにより、考え方やアプローチ方法に多少違いが生じることもありますが、目指すのは「未来のより良い医療社会の実現」でした。私も、薬局の薬剤師が調剤以外の新しいフィールドで

会議はみんな和気あいあいとした雰囲気、よりよいシステム実現に向けて、自由に議論を進めています。今後は、実際のWebサイトのシステムを考えたり、資金を集めたり、薬剤師さんやユーザーさん向けに広報活動を行う予定です。

現在参加している京薬の学生は4年次生2人・3年次生2人の計4人ですが、今後は、本学からも他の大学からも、より多くの学生に参加してほしいと考えています。Pharmatchingの活動に興味を持ってくれた方は、「京都市 Pharmatching」で検索、もしくはLINEオープンチャットに入って気軽に質問してください。実際チームに参加するかどうかは、その後で考えてくれるのでかまいません。ぜひ私たちと、薬剤師さんや市役所の方々と一緒に、薬剤師の新たな職能発揮の場をデザインしてみましょう！(o^o)

も活躍し、人々が生涯健康に暮らす為に何が出来るのかを必死に考える様になりました。考える上で大切な事は、人々が真に求めているものを分析する事です。コロナウイルスで一気にオンライン化が進みました。ライバルが増え、私達のアイデアは斬新さを失いました。しかし同時に、必要不可欠である事に確信が持てました。「若い世代が薬剤師に気軽に相談し、病気の予防や健康の維持・増進に繋がる社会の実現」を目指し、今後も活動に取り組んでいきたいと思っています。

出来る事は沢山あります。可能性はいっぱいです。夢は膨らみます。

◇3年次生 相馬 夏月

今はアイデアの実現に向けてオンラインで月に一回話し合いをしています。学生が司会をして、議事録を残したり意見を出し合ったりしています。皆で協力して1つ1つ丁寧に考えて実行していくことが楽しいです。

色々な方の話を聞くと、まだ、薬局・薬剤師が薬の調剤以外に何をしているのかわかりにくい状況だと感じました。薬の調剤以外にも健康の相談もできるということをもっと知ってもらい、活用してほしいと改めて思いました。その一歩としてこのファーマッチングを早く実現させたいと思います。プロジェクトに参加する中で、自分が将来薬剤師として何ができるのかを

考えるようになり、当たり前のことですが、日々の勉強の積み重ねを大事にしたいと思いました。

また、様々な職業の方や世代の方とお話をする中で本当に沢山のことを学んでいます。会議の進め方や意見の伝え方、相手の意見の捉え方、場の和ませ方など毎回勉強になることばかりです。私ももっと自分で何が出来るかを考えて準備して積極的に行動したいと思います。早くアイデアが実現し、薬剤師を上手く活用してセルフメディケーションが活発な世の中になったらいいと思います。

■ 名誉教授 北出 達也

本年7月20日に学長室にて、理事長、副学長、事務局長様同席のもと後藤直正学長より2020年4月1日付で名誉教授の称号を授与する旨の「名誉教授称号証書」を拝授いたしました。歴史と伝統に輝く京都薬科大学からこのような称号を授かることは、私にとりまして光栄であり心よりお礼申し上げます。一方、定年退職して4ヵ月が過ぎじっくりと長年の教員生活をふりかえれば、今になってやり残したことや、あの時このようにすべきだったなど、多くの心残りが思い起こされ、私にとりまして過分な授与をいただいているのではと恐縮いたしております。

京都薬科大学には37年間教員として籍を置かせていただきました。この間、多くの学生と一緒に学び、一

緒に成長できたこと、また職員の皆様方に囲まれ安寧に仕事できたことは、私の人生にとりましてこの上ない幸せだったとしみじみと感じています。感謝の気持ちを込めて京都薬科大学の無窮の発展をお祈りしますと共に微力ながら応援しております。



(左から)山下事務局長、後藤学長、北出名誉教授、赤路副学長、土屋理事長

News 人事異動

採用

事務局学生課（学生相談室） 主事 上野みな子
(2020. 7. 1付)

再任用

医療薬科学系臨床薬学分野 講師 辻本 雅之
病態薬科学系臨床腫瘍学分野 助教 飯居 宏美
病態薬科学系病態生化学分野 助教 河下 映里
(以上任期：2020. 7. 1～2025. 6. 30)

昇格

事務局調達検収室 室長 星野 展宏
(2020. 7. 1付)

退職

特命教員 特命教授 辻本 喜則
(2020. 6. 30付)

2021年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）の入学選考結果

入試課

2021年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）を8月19日（水）に実施し、8月24日（月）に合格発表を行いました。入学選考の結果は表の通りです。

○2021年度薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	11名
受験者数	11名
合格者数	11名



“なんとか文庫”が溢れかえっている。そのうえに宇宙のかなたの新星誕生の如く、いままさに新たな文庫が誕生しているかもしれない▲新潮文庫や岩波文庫しかなかった半世紀ほど前までは、文庫出版は歴史的名著を廉価で広く提供するためであり、作品にとっては栄誉の座であった。ちなみに岩波書店HP「文庫豆知識」によればベスト3は、プラトン／久保勉訳『ソクラテスの弁明・クリトン』、夏目漱石『坊っちゃん』、ルソー／今野一雄訳『エミール（上）』の順だそうで、私は6割を超えぬが、3割超えの大打者である-珍しくもないが。それにしても『（下）』が10位に入らないのが二クイ-（上）で挫折か。二文庫が統治する世に、歴史的名著ではないが単行本でそれなりの人気を博した作品を収録した“角川文庫”が誕生したことを覚えている。「チャライ」と言ったような気がするが、そんな偉そうぶった戯言などとうに忘れ、いまや興味が湧けば、新潮、角川、文春、幻冬、祥伝社、講談社、八百万の文庫を読んでいる▲岩波、新潮の時代とは違う現代の文庫の役割を考えると、単行本で売れたものを廉価文庫にして、漏れた購買者まで収獲するサルベージ漁法という伝統的路線でもあるが、多くは低コストで当たりを探り、魚信がなければすぐに撤退する試し釣り路線が多いように見受けられる▲在野の日本古典文学者であり、かつてリンボウで名を馳せた林望氏は、『謹訳 源氏物語 全十巻』（祥伝社）を出版後、修正を加えて『謹訳 源氏物語 改訂新修 全十巻』（祥伝社文庫）を再出版されている。ということは文庫の方が価値あることになる。昨年11月末から約3か月、通勤電車内の立ち読み、帰宅後寝るまで、年末も正月もなく42.195kmのような約5,000頁読破にケチがつかなくてホッとした。ちなみに『謹訳』はすっきりとした訳文で、受験以降古典と無縁の身にもつらさを感じさせない。それどころか源氏物語とは-ご存知の呆れるような内容も少なくはないが-心の葛藤を描いた心理物語なのかと感嘆させられた。明治以降、谷崎潤一郎、与謝野晶子、田辺聖子、瀬戸内寂聴、新しくは角田光代の諸氏が現代語に訳されている。読み初めて挫折したものは幾つかあるが、『謹訳』は完走できた。名訳と評したい。ただ、私のような凡なる身には、和歌の訳は俵万智著『愛する源氏物語』（文春文庫）の方がフィットした▲『謹訳 源氏物語』への思い入れ軌道を離れて、私的文庫論。最近の文庫のみ出版本には目を覆いたくなる、すべてではないが。膨らまし粉をふんだんに加えることで頁を稼いでいるもの、もっとすごいのは「短文+改行」である。英語のような論理のまとまりのある段落構成が日本語で見られることは少なく、小説などでは一文ごとに改行されている場合も少なくはない。短文で改行するとどんどん空白が生じる。日本美術での余白は美であるが、本の余白は無情を感じさせる。先の「文庫豆知識」によれば、文庫の価格はおよそ頁数で決められるそうである。ということは、小説を買っているのではなく、なにを買っているのだろうか▲ぶつぶつと終わるのも癪なので、終わりにひとつ。「---総じて短文体の作家は呼吸器官が弱く、肺活量が少ないのではないか---長文体の作家は、心肺機能が強健で、一呼吸の感覚が長いために、文章も切れ目のない、長々しいものになるのでしょう。短文体の清少納言よりも「すべらかし」調の紫式部の方が心肺機能は強かった---」（増淵勝一著『源氏物語の謎』，国研ウェブ文庫）と。最近、短文改め、長めの文を書こうとしているが、文章力が要るのですよね

薬学教育研究センター長 細井 信造

第105回薬剤師国家試験（6年制薬学の9回目）が2020年（令和2年）2月22日、23日に実施されました。前回よりやや難化しましたが、単なる知識のみならず、読解力、思考力、応用力を問う良問が多かったと判断されます。前回から新たに禁忌肢が導入され、選択した問題が2問以下であれば合格基準を満たすとされました。今回から合否に関係なく、成績が通知されるようになりました。第106回から適用される「新出題基準」や「改訂コアカリ」を意識した、科目の壁を越えた連問など「総合的思考力」が求められる問題が今回も数多く出題されました。「臨床能力」を求めるような実務実習の成果を問う問題も多く、地域包括ケアシステムの中での健康サポート薬局やかかりつけ薬局の役割、ポリファーマシーや重複投与などを踏まえた処方提案といった薬剤師の職能を発揮するための知識や判断力を求める問題もありました。薬学理論問題では「物理・化学・生物」と「衛生」の3連問、「薬理」と「病態・薬物治療」の2連問などがあり、このような問題は今後益々増えていくことが予想されます。また、化学構造式が「物理・化学・生物」および「衛生」のみならず「薬理」「薬剤」などでも見られたことから、今後は化学構造を意識しながら学修することが重要と思います。全体的には、「国の求める薬剤師像が色濃く反映されていた」問題であったように感じました。

表1. 男女別、設置主体別合格率

(1) 男女別合格率①

区分	総数	男	女
出願者	15,785名	6,386名 (40.46%)	9,399名 (59.54%)
受験者	14,311名	5,678名 (39.68%)	8,633名 (60.32%)
合格者	9,958名	3,823名 (38.39%)	6,135名 (61.61%)
合格率	69.58%	67.33%	71.06%

(2) 男女別合格率②

区分		総数	男		女	
6年制 新卒	出願者	10,276名	3,933名	(38.27%)	6,343名	(61.73%)
	受験者	9,194名	3,469名	(37.73%)	5,725名	(62.27%)
	合格者	7,795名	2,980名	(38.23%)	4,815名	(61.77%)
	合格率	84.78%	85.90%		84.10%	
6年制 既卒	出願者	5,119名	2,223名	(43.43%)	2,896名	(56.57%)
	受験者	4,804名	2,033名	(42.32%)	2,771名	(57.68%)
	合格者	2,050名	792名	(38.63%)	1,258名	(61.37%)
	合格率	42.67%	38.96%		45.40%	
その他	出願者	390名	230名	(58.97%)	160名	(41.03%)
	受験者	313名	176名	(56.23%)	137名	(43.77%)
	合格者	113名	51名	(45.13%)	62名	(54.87%)
	合格率	36.10%	28.98%		45.26%	

(3) 設置主体別合格率

区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	661名	635名	539名	84.88%	488名	484名	453名	93.60%	55名	50名	27名	54.00%	118名	101名	59名	58.42%
公立	281名	270名	231名	85.56%	214名	214名	201名	93.93%	24名	17名	4名	23.53%	43名	39名	26名	66.67%
私立	14,842名	13,405名	9,188名	68.54%	9,574名	8,496名	7,141名	84.05%	5,040名	4,737名	2,019名	42.62%	228名	172名	28名	16.28%
その他	1名	1名	0名	0.00%									1名	1名	0名	0.00%
本学	411名	381名	335名	87.93%	372名	349名	320名	91.69%	33名	29名	15名	51.72%	6名	3名	0名	0.00%

さて、今回の試験では、国公私併せて73大学の学生が受験しました。15,785名が出願し受験者総数14,311名中、合格者は9,958名で合格率は69.58%（第104回：70.91%）でした。6年制新卒の全国合格率は84.78%と僅かに低下しました（第104回：85.50%）。また、6年制既卒者の合格率は42.67%と新卒に比べてかなり低く、第104回（43.07%）に比べて0.4ポイント低下しており、年々その合格率が低下する傾向にあります。本学では、新卒者349名が受験し、合格者は320名（合格率91.69%：私立11位）、6年制既卒者は29名受験して合格者は15名（合格率51.72%）、4年制既卒者は3名受験して合格者は0名、本学総合合格率は87.93%で、全国総合8位（73校中）でした。この学年は、成績面で心配な学生の割合が比較的高い学年でしたが、ここまで学年全体の成績が伸びた要因として次のことが挙げられます。1) 各自危機意識を持って計画的に学修に取り組んでいた、2) 2019年度の薬学演習（対象者：実力試験Ⅱおよび評定平均の下位学生）では主体的な学びを促すべく、事前課題（第104回薬剤師国家試験の必須問題のうち物理・化学・生物、薬理および薬剤について解説を考えさせる）を課し、予習に重点を置いた反転授業を取り入れた、3) アドバンスト薬学（6年次後期開講科目）終了後の指定演習（確認試験や模擬試験の成績下位者を対象）では、その日の担当教員・講師によるデイリーテストのポイント解説を実施した、4) 前述3)の演習において、反復学修の一つの機会としてウィークリーテストの実施、5) 当センターでの質問対応や個別の学修相談、また模擬試験の成績下位者に対する面談等により現状の把握と意識改革の促しや学修アドバイスなどの包括的学修フォローアップを行ったこと、などです。

次に、今春卒業した本学6年制9期生の評定平均と国家試験合否との関係を調べました。表2に示すように、これまでと同様評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均75点以上の卒業生は全員合格しており評定平均が下がるにつれて、卒業率および合格率が低下傾向にあります。このことは、1年次からの学修の積み重ねが如何に大切かを物語っています。単位を修得するためだけの勉強ではなく、純粋に学問に興味を抱き、普段から将来の医療従事者としての自覚や国家試験等を見据えた高い学修意識を持つことが肝要と考えます。

表2. 評定平均と可否との関係

評定平均 ※1	学生数 ※2	卒業生	合格者	不合格者	卒業・合格率
95点以上	0	0	0	0	—
90点以上95点未満	4	4	4	0	100.0%
85点以上90点未満	26	26	26	0	100.0%
80点以上85点未満	54	54	54	0	100.0%
75点以上80点未満	81	81	81	0	100.0%
70点以上75点未満	102	98	89	9	87.3%
65点以上70点未満	102	85	65	20	63.7%
65点未満	3	1	1	0	33.3%

※1 専門必修講義科目の平均点

※2 休学者3名を除く

本学6年制9期生に対しても、これまでと同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データ入力への協力を要請したところ、349名の受験者中319名入力してくれました（入力率91.4%、前回：88.1%）。表3に示しますように、本学総合正答率は72.2%と前年度（75.2%）に比べて3.0ポイント低下しましたが、この結果からも今回の問題が難化したことが窺えます。平均正答率30%未満の問題が27題（前回17題）あり、その内訳は必須問題で4題（前回0題）、理論問題で12題（前回10題）、実践問題で11題（前回7題）と、いずれの問題区分においても増加しています。科目ごとの正答率を比較しますと、物理・化学・生物はすべての問題区分において他の科目に比べて正答率が低いものでした。これはより思考力を問う難問が多かったこともその要因と言えます。また、病態・薬物治療の理論問題が他の科目に比べて正答率が低いものでした。これは、今までの出題形式とは異なるものや、脳腫瘍に関する新規出題疾患もあったこともその要因と言えます。薬剤の実践問題では、患者の状態から処方提案する問題や、薬剤を比較する長文を読解して考えさせる問題等、正に臨床現場で行われている判断力を求める問題も多数出題されました。また病態・薬物治療の実践問題では症例の内容を読解して答えを導く、医師と同等の能力を問う難解な問題もありました。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必 須 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	6	4	7	7	7	6	6	58
平均点	11.3	8.7	11.6	12.3	12.8	8.7	9.4	74.8
最高点	15	10	15	15	15	10	10	87
平均正答率	75.3%	87.4%	77.1%	82.2%	85.2%	87.1%	94.3%	83.1%
学内全体（新卒）								82.80%

問題区分	理 論 問 題						
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	合計
問題数	30	20	15	15	15	10	105
最低点	7	7	6	3	2	3	45
平均点	16.0	13.7	12.6	10.0	8.5	8.4	69.1
最高点	26	19	15	15	15	10	89
平均正答率	53.2%	68.4%	84.1%	66.4%	56.8%	84.3%	65.8%
学内全体（新卒）							65.60%

問題区分	実 践 問 題								
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	総合計
問題数	15	10	10	10	10	10	85	150	345
最低点	4	1	3	2	3	4	37	61	174
平均点	9.8	6.9	7.9	6.6	7.2	7.5	60.6	106.4	250.4
最高点	15	10	10	10	10	10	79	134	306
平均正答率	65.0%	69.2%	78.6%	66.1%	71.9%	75.1%	71.2%	70.9%	72.6%
学内全体（新卒）								70.50%	72.20%
全国（新卒）									69.80%

＜第106回薬剤師国家試験に向けて＞

もはや、今の国家試験は付け焼刃的な学修で対応できる試験ではなくなっています。つまり、低学年次からの学修の積み重ねが重要であり、6年次になってから慌てて勉強しても間に合わない可能性が高いということです。1年次から国試対策をせよと言っているわけではありません。1～3年次生の皆さんは、今の勉強をしっかりとすればよいのです。4年次生以上の皆さんは、まずは、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭し、逆に武器（強み）に変えられるよう努力してください。基礎系科目、すなわち物理・化学・生物は他の科目の基礎であり、定着するには時間がかかるため、反復学修が重要となります。また、薬理および薬剤は国家試験において、合格者と不合格者との正答率の差が大きい科目であることが判明しています。国家試験では内容が偏ることなく出題されますので、重要項目を中心に理解しながら、また科目の垣根を越えて関連付けながら勉強することが大切です。今、成績がよくない、あるいは先行き不安であると感じている学生さんは、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。分からないことを放置するのではなく、ちょっとしたことにも疑問を持ち、直ぐに調べ、解決するように努めることも大切ですし、また友達と一緒に勉強し、教え合うことも効果的な学修方法です。各教科の内容に関する質問については『オフィスアワー』を、また学修に関する悩み相談については薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。目標を達成するためには平素の努力の積み重ねと早めの行動が大切です。「雨垂れ石を穿つ」。

海外の研究室に在籍して感じたこと

ふかや まさし

深谷 匡



2015年 学部卒業
2019年 大学院博士課程修了
(生薬学分野)
岐阜医療科学大学
薬学部薬学科 生薬学分野
助教

私は2015年3月に本学学部を卒業後、2019年の3月に大学院を修了（博士号を取得）し、2020年4月から岐阜医療科学大学薬学部 生薬学分野の助教として着任しております。その間、海外の大学研究室に合計1年6か月間在籍しておりました。今回、海外留学した際、気付いた点についてこの場を借りて紹介させていただきます。

私は、本学大学院短期研究留学制度を利用して頂き、2018年の4月から半年間、ドイツのメインツにある Johannes-Gutenberg University Mainz (Prof. Dr. Thomas Efferth) での研究留学を行いました。さらに、大学院修了後、アメリカ西海岸ワシントン州の Pullman という小さな町にある Washington State University (Prof. Dr. Norman G. Lewis) で1年間博士研究員として勤務しました。2つの海外の大学研究室に合計1年6か月間在籍し、それぞれ、「生体内の天然代謝産物の網羅的解析研究」や「天然生物活性成分と標的分子の結合様式のシミュレート研究」などを進めておりました。

その経験が、京都薬科大学に在籍していた際の主研究テーマ「天然薬物からの機能性化合物の探索研究」と合わせて、現在、大学教員として研究教育を進める上での大きな財産となっています。

ところで、海外と京都薬科大学の研究室では、生活スタイルなどでいくつもの違いがありました。最も大きな違いは、海外の大学では学部生が研究にほとんど参加しないという点です。アメリカおよびドイツの薬学部の場合、学部生が基礎研究をしっかりと行わないため、学部生は創薬についてほとんど知識がありません。幸い、京都薬科大学に在籍している皆さんは、研究室でじっくりと研究を行うことができます。基礎研究を進める上での技能・知識だけでなく、研究マインドをしっかりと身に着けることができます。この能力の取得は、薬剤師としてだけでなく社会人として活躍するためとても重要であると考えています。また、京都薬科大学には、学部生・大学院生のどちらにおいても、語学または研究留学のチャンスがあります。今年はコロナウイルスの影響で海外に渡航することはできませんが、来年度以降、収束した際には積極的に参加して知見を広げて欲しいです。

最後に、皆さんが、京都薬科大学に在籍していることに自信を強く持ち、良い仲間を持ち、研究や勉強に打ち込むことで志望する就職先に入り、より良い人生を歩まれることを切に願います。私も京都薬科大学卒業生として、皆さんの活躍に負けないよう、また社会に貢献できよう頑張りたいと思います。

News 京薬会だより

<令和2年8月号京薬会誌の発行とmanabaへの掲載について>

京薬会では、年2回（8月、2月）会誌「京薬会誌」を発行しています。

これまで、学生の皆さんには、前・後期の成績書配付時に学生相談員・分野主任の先生方から手渡しで配付していただいていた。ところが今年は新型コロナウイルス感染症拡大の関係から、対面での配付が出来なくなりました。このことから、令和2年8月号（京薬会誌第152号）からmanabaの掲示板でお知らせ、会誌の電子ファイルを掲出することとしました。卒業生の動向や大学の近況などの記事も掲載しているので、是非ご覧になってください。

<愛学躬行歴史資料室について>

創立136年の歴史を刻む京薬大・同窓会を紹介する愛学躬行歴史資料室を育心館3階にて公開しています。現在、学内への入構制限が継続されていますが、機会があれば1年次生をはじめ、まだ歴史資料室を見学したことのない学生の皆さんは是非お越しください。

また、京薬会ホームページへのアクセスは、右のQRコードです。



愛学躬行歴史資料室の入口

事務局 企画・広報課 仲達 依子
『ベルナのしっぽ』 郡司 ななえ
KADOKAWA／角川文庫

皆さんは盲導犬に出会ったことはありますか？

この本は27歳で視力を失った筆者が盲導犬ベルナと過ごした日々を綴ったもので、読み終わったあとには心がじんわり温くなる一冊です。犬が苦手だった筆者が出産・育児のために盲導犬と生きることを決意したことから、パートナーとなるベルナと初めて会った瞬間、ベルナとの様々な訓練、そして家族の一員となったベルナと生活する中でのほっこりしたエピソードや、時には悲しかった出来事などが実際の体験談として読みやすい表現で描かれています。



私がこの本に出会ったのは、小学生の頃、授業でバリアフリーについて学んでいたときでした。身の回りにある点字ブロックやスロープなどを調べるだけでなく、実際に盲導犬と生活されている方のお話を聞く機会もあったため、より本書を身近に感じたのを覚えています。本で描かれている舞台は昭和50年代なので盲導犬に対する認知度も低く、現代とは異なる部分もありますが、気付かされることがたくさんありました。特に印象に残っているのはベルナの盲導犬としての強い使命感・責任感が様々なエピソードに表れていたことです。また、そのベルナの気持ちや意思を感じ取ることでできる筆者との強い絆にも感動しました。

読み終えたあとにはきっと優しい気持ちになれると思いますので、ぜひ皆さんも読んでみてはいかがでしょうか。また、この本を原作とした映画も2006年に公開され、DVDも発売されているので興味のある方はぜひこちらもご覧になってください。

Library News

学生用図書が入りました！

図書館では年2回、学生みなさんに読んでほしい本や学習・研究に役立つ本を「学生用図書」として、教員より推薦いただいています。[前期]の選書は全部で39冊！薬学や物理化学などの専門的な図書から経済学の図書まで、幅広いジャンルの図書が「新着コーナー」に並んでいます。「どんな図書が新しく入ったんだろう？」と気になる方は、「図書館ホームページ＞資料案内＞学生用図書」に掲載している年度ごとの推薦図書リストをご参照ください。

また、シラバスに掲載された参考図書も購入し、あわせて「新着コーナー」に配架しています。講義の内容を深めるためにもご利用ください。図書館には今後もどんどん新しい本が入ってきます。自由に来館できない状況が続いていますが、機会がある方はぜひ、足を運んでお気に入りの1冊を見つけてください。

図書館



学生用図書コーナー

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



学校法人京都薬科大学2019年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、2020年6月22日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議員会に報告されました。

2017年度から始まった第3期中期計画は、諸事業を展開するためのアクション・プランに基づき、着実に成果を上げています。2019年度中に成果を挙げた主な取組みは、教育職員評価制度の本格導入に向けたトライアルの実施、奨学支援や教育研究等の充実・発展を目的とした恒常的な寄附事業の開始、ICTを活用した教育研究環境の充実、学内無線LANの整備、LED照明器具への更新工事等による光熱水費の削減に向けた取組等です。

一方、収入面においては、「私立大学研究ブランディング事業」、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」、「私立学校施設整備費補助金」、「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」等の補助金を獲得しています。

■ 2019年度資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度に行った諸活動に対応するすべての資金の動き（収入と支出の内容）を表すものです。

（単位 千円）

	科目	予算	決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,233,200	4,255,276	△ 22,076
	手数料収入	83,700	74,889	8,810
	寄付金収入	45,000	43,431	1,568
	補助金収入	447,800	424,709	23,091
	資産売却収入	899,900	899,910	△ 10
	付随事業・収益事業収入	32,600	35,482	△ 2,882
	受取利息・配当金収入	138,800	153,248	△ 14,448
	雑収入	82,200	86,235	△ 4,035
	前受金収入	559,300	560,189	△ 889
	その他の収入	804,100	875,600	△ 71,500
	資金収入調整勘定	△ 654,700	△ 629,560	△ 25,139
	前年度繰越支払資金	3,933,400	3,908,615	24,784
	収入の部合計	10,605,300	10,688,027	△ 82,727
支出の部	人件費支出	1,947,900	1,949,683	△ 1,783
	教育研究経費支出	1,663,800	1,427,563	236,236
	管理経費支出	446,500	377,210	69,289
	施設関係支出	130,500	222,676	△ 92,176
	設備関係支出	203,800	144,470	59,329
	資産運用支出	2,179,800	2,288,845	△ 109,045
	その他の支出	946,300	939,289	7,010
	予備費	20,000		20,000
	資金支出調整勘定	△ 249,000	△ 296,039	47,039
	翌年度繰越支払資金	3,315,700	3,634,327	△ 318,627
	支出の部合計	10,605,300	10,688,027	△ 82,727

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

資金収支（収入の部）

学生生徒等納付金収入は、予算額を上回り4,255百万円になりました。また、受取利息・配当金収入も予算額を14百万円上回り、153百万円となりました。資産売却収入は国債の満期償還分となり、予算どおりとなっています。

一方、補助金収入は、特別補助金、研究設備整備費補助金が当初の見込みより減となったため、予算額を下回る424百万円となりました。対前年比で見ると、一般補助金が20百万円の増となりましたが、特別補助金は私立大学研究ブランディング事業等の継続事業の補助金が減額されたことにより、17百万円の減となりました。

資金収支（支出の部）

人件費は、1.7百万円と僅かに予算額を上回り、1,949百万円となりました。教育研究経費は、研究費の繰越し等による未執行分や、業務委託等の減少により、予算額を下回り1,427百万円となりました。管理経費支出も予算額を下回り377百万円となりました。施設関係支出では、学術系無線LANの整備、愛学館の自動ドアの設置工事、グラウンドの防球ネットの取り換え工事、新北門整備工事等で、予算額を上回り222百万円となりました。設備関係支出では、予算額を59百万円下回り144百万円となっています。資産運用支出は、組入計画に基づく組入や、資産運用収入の繰入、国債の満期償還分の繰入などで、2,288百万円となりました。

以上により、翌年度繰越支払資金は、3,634百万円となりました。

2019年度事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度（4月1日～翌年3月31日）の経常的活動（教育活動収支、教育活動外収支）及び臨時的活動（特別収支）を区分して、それぞれの事業活動収入と事業活動支出の内容及び基本金組入後の収支均衡の状況を明らかにするものです。また、資金収支計算書はすべての資金の動きを明らかにするものですが、事業活動収支計算書には、資金の収支を伴わない「現物寄付」、「減価償却額」、「退職給与引当金組入額」なども含めた事業活動収支の状況について把握することを目的としています。

(単位 千円)				
	科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	4,233,200	4,255,276	△ 22,076
	手数料	83,700	74,889	8,810
	寄付金	45,000	43,623	1,376
	経常費等補助金	405,700	413,566	△ 7,866
	付随事業収入	32,600	35,482	△ 2,882
	雑収入	82,200	84,982	△ 2,782
	①教育活動収入計	4,882,400	4,907,819	△ 25,419
	事業活動支出の部			
	人件費	1,933,000	1,944,712	△ 11,712
教育活動外収支	教育研究経費	2,395,600	2,120,334	275,265
	管理経費	548,500	475,954	72,545
	徴収不能額等	0	0	0
	②教育活動支出計	4,877,100	4,541,001	336,098
	③教育活動収支差額	5,300	366,817	△ 361,517
	事業活動収入の部			
	受取利息・配当金	138,800	153,248	△ 14,448
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	④教育活動外収入計	138,800	153,248	△ 14,448
	事業活動支出の部			
特別収支	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	⑤教育活動外支出計	0	0	0
	⑥教育活動外収支差額	138,800	153,248	△ 14,448
	⑦経常収支差額	144,100	520,066	△ 375,966
	事業活動収入の部			
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	52,100	21,611	30,488
	⑧特別収入計	52,100	21,611	30,488
	事業活動支出の部			
基本金組入	資産処分差額	10,000	3,825	6,174
	その他の特別支出	0	2,187	△ 2,187
	⑨特別支出計	10,000	6,013	3,986
	⑩特別収支差額	42,100	15,597	26,502
	〔予備費〕	20,000		20,000
	⑪基本金組入前当年度収支差額	166,200	535,663	△ 369,463
	基本金組入額合計	△ 763,000	△ 768,439	5,439
	当年度収支差額	△ 596,800	△ 232,775	△ 364,024
	前年度繰越収支差額	948,200	1,193,148	△ 244,948
	基本金取崩額	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	351,400	960,372	△ 608,972
(参考)				
事業活動収入計		5,073,300	5,082,678	△ 9,378
事業活動支出計		4,907,100	4,547,014	360,085

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

教育活動収支

「教育活動収支」は、学校法人の本業である教育研究事業の収支を表しています。

学生生徒等納付金収入（4,255百万円）の経常収入（5,061百万円）に占める割合（学生生徒等納付金比率）は84.1%で、補助金収入（413百万円）の経常収入に占める割合8.2%（経常費補助金比率）と合わせると92.3%となり、本学の収入の大部分を占めています。

教育活動収支における事業活動支出においては、人件費（1,944百万円）の経常収入に占める割合（人件費比率）は38.4%です。また、教育研究経費は2,120百万円となり、経常収入に占める割合（教育研究経費比率）は41.9%となりました。

教育活動外収支

「教育活動外収支」は、経常的な収支のうち教育活動以外の収支で主に財務活動の収支を表しています。

本学は、債券、投資信託、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は153百万円となりました。経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は520百万円となり、経常収支差額比率（経常収入に占める経常収支差額の割合）は10.3%となりました。

特別収支

「特別収支」（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支）の特別収支差額（特別収入－特別支出）は15百万円となりました。

事業活動収支差額比率

事業活動収入は、5,082百万円、事業活動支出は4,547百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は、535百万円、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は10.5%となりました。

基本金の組入れと翌年度繰越収支差額

基本金は、第1号基本金に239百万円、第2号基本金には、教育研究総合センター等の整備費として505百万円を組入れました。また、第3号基本金には奨学基金に8百万円、第4号基本金には15百万円を組入れるなど、計

768百万円の基本金組入となりました。この結果、当年度収支差額は△232百万円となり、前年度からの収入超過額1,193百万円を加え、翌年度繰越収支差額は960百万円となりました。

■ 2019年度貸借対照表

貸借対照表は、決算時における資産、負債、基本金及び収支差額を把握するもので、教育研究に必要な財産を適正かつ安全に保持しているかどうかの財政状態を確認するためのものです。

(単位：千円)

科目		本年度末	前年度末	増減
資産の部	固定資産	33,063,858	32,286,052	777,806
	有形固定資産	13,327,369	13,754,989	△ 427,620
	特定資産	19,596,879	18,495,515	1,101,364
	その他の固定資産	139,609	35,547	104,062
	流動資産	3,791,382	4,050,934	△ 259,551
資産の部合計		36,855,241	36,336,986	518,254
負債の部	固定負債	926,306	880,155	46,151
	流動負債	798,672	862,232	△ 63,560
	負債の部合計	1,724,978	1,742,387	△ 17,409
純資産の部	基本金	34,169,890	33,401,450	768,439
	繰越収支差額	960,372	1,193,148	△ 232,775
	純資産の部合計	35,130,263	34,594,599	535,663
負債及び純資産の部合計		36,855,241	36,336,986	518,254

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

資産の部

有形固定資産は、設備整備や教育研究用機器備品の購入よりも、減価償却額が多かったため、前年比427百万円減の13,327百万円、特定資産は、第2号基本金引当特定資産の計画的組入等により、前年比1,101百万円増の19,596百万円となりました。また、流動資産は、前年比259百万円減の3,791百万円となり、その結果、資産の部合計は36,855百万円となり、518百万円の増加となりました。

負債の部

負債のうち、固定負債926百万円は退職給与引当金を計上しています。流動負債798百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,724百万円となりました。

純資産の部

基本金768百万円を組入れ、基本金の合計は34,169百万円となりました。繰越収支差額は960百万円となり、その結果、純資産の部合計は前年比535百万円増の35,130百万円となりました。

■ 2019年度の財務状況について

2018年度と比較すると、2019年度は学生生徒納付金収入や手数料収入などが減少する一方で、人件費や教育研究経費、管理経費が増加しました。この結果、基本金組入前当年度収支差額（当年度の収支均衡を見るための指標）は、2018年度に比べ約216百万円減少したものの、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は10%を上回る水準を維持しており、経営状況は安定しています。

また、学校法人の経営状態を把握する上で非常に重要な「定量的な経営判断指標」（日本私立学校振興・共済事業団）に基づいた本学の区分はA1（最高位）となっており、正常状態を示しています。

2020年8月にWebサイト「WEB OPEN CAMPUS2020」を新設しました

Event

入試課

新型コロナウイルス感染症の影響により、8月1日（土）・2日（日）に予定していたオープンキャンパスは、残念ながら来場者を迎えての開催は中止とし、Webサイト「WEB OPEN CAMPUS2020」を新たに開設しました。

「学長メッセージ」「大学紹介」「入試ガイダンス」「研究室紹介」「キャンパスツアー」など、様々なコンテンツを盛り込みました。

また、8月1日（土）・2日（日）の2日間限定のプログラムとして、「教員によるWeb個別相談会」「学生によるトークライブ動画」を事前予約制で実施しました。

Web個別相談会はMicrosoft Teamsを介する形式で行いましたが、相談に対応した教員と和やかな雰囲気の中、受験生からは「入学試験」「教育内容（薬剤師国家試験）」

「留学」などについての相談がありました。

学生によるトークライブ動画では、学生ジョブの企画スタッフが大学生活について、また学生たちの目線から京都薬科大学を紹介してくれました。



Web個別相談の様子（後藤学長）

■ 不安の中身を「可視化」する

COVID-19という未知なるウイルスが各所にもたらす影響により、今、私たちの日常は振り回され続けています。そして、否応なく要請される様々な生活環境の変化に適応しなければいけないという課題に各個人が直面しています。

この4月以降、大学においても、オンデマンド型講義というとても大きな変化がありました。また、課外活動の停止等、人が多く集まる機会と場所がどんどんなくなっていきました。人と人との直接的なつながりが感じられにくい生活様式になりつつあります。みんな実際に集まってコミュニケーションを図ることがこころの安定や疲労回復につながっていた方にとっては大きなダメージですが、一方で、この新しい生活様式のほうがソーシャルディスタンスもとることができるし、むしろこころの安定につながっているという方もいるでしょう。この状況がそれぞれの方にとってどう受け取られているかは千差万別だと思います。

未曾有の出来事の渦中において、こうすればいいという正解などというものはないのかもしれませんが。各自がなんとか持ちこたえながら日々の取り組みの中で考えていくこと、知恵を寄せ合うことが大切なのだと思います。ここでは一つの工夫として「不安の可視化」というお話をさせていただきます。変化というのはそれ自体が人にとって大きなストレス要因となります。今年は、本当に様々な変化が起きています。そして、その変化の中身には人の「不安」を掻き立てるものがとても多く含まれています。例えば、自分や身近な人の感染不安とともに、感染予防拡大のための生活様式の変化がもたらす不安や、失業等による実際の生活上の変化による不安等があげられます。そして、先行きの見えない状況そのものがさらに不安を増大させています。そういった不安は多くの人を感じているでしょうし、ストレス反応としては自然なことです。

しかしながら、不安が原因となって「ソワソワしてやるべきことに手がつけられない」「胸がざわざわし

て集中できない」「気分の波がでてきている」等、人にとって苦しいと感じる様々な状態がもたらされることがあるのです。そこで対処が遅れてしまうと、メンタルヘルスの維持が困難になる場合もあります。まずは、自分自身の状態を気にかけてあげてほしいと思います。

不安への対処はまず、その中身を知るところから始まります。「モヤモヤする」「ザワザワする」「ソワソワする」といった漠然とした不安感をキャッチして、それを観察します。そして、例えばその「モヤモヤ」をそのままにせず、どんな時に出てきやすいのか？を考えてみてその「不安」を何かと関連付けていってみます。例えば、「〇〇さんと会った後にその『モヤモヤ』が出てきやすい。〇〇さんは課題の取り組みがしっかりできている人。自分としては引け目を感じている。この『モヤモヤ』は『焦り』なのだろうか・・・」等の作業です。

多くの場合、「モヤモヤ」一つとってもその正体はとても複雑なのですが、この場合「焦り」という一つの中身が明らかになりました。考えるだけではなく、紙に書きだしたり、絵が好きな人はイメージで表現してみたりするのも一つの方法です。不安の中身を特定したり名付けたりして「可視化」する作業がとても大切です。そして、具体的な不安の中身にどのように対処していくのか、関わっていくのかという次のプロセスに踏み出すことができます。

このようにサラッと書いてしまうとさも簡単そうに見えますが、実はこの作業はとても難しく練習が必要なことでもあります。もし、「やってみようにも一人で取り組むのは難しい、そもそもどうやっていいのかわからない」ということがあればぜひ学生相談室へお越しください。相談室で言葉にして語ること自体にも「外在化して可視化する」という効果があります。

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。

相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。

学生ご本人だけでなく、保護者や教職員の方からのご相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

なお、新型コロナウイルス感染予防の観点から、原則としてオンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）になっております。詳細はお問合せください。

- ・ 開室（受付）時間 : 月～金 8:45～17:15
- ・ 電話 : 075-595-4672（建部）／075-595-4986（上野）
- ・ メール : gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

- 本学教員と東京薬科大学の共同研究で報告した学術論文が、日本薬学会学術誌Chem. Pharm. Bull. 誌のハイライトHighlighted paper selected by Editor-in-Chiefに選定されました。

衛生化学分野 高山准教授と東京薬科大学薬学部薬品化学教室の共同研究で報告した学術論文が、日本薬学会学術誌Chem. Pharm. Bull. 誌のハイライトHighlighted paper selected by Editor-in-Chiefに選定されました。Highlighted paper selected by Editor-in-Chief では、学術誌の一般投稿論文を対象に、特に独創性、科学的貢献度、方法、論文構成、表現等を選定基準として優れたものが選定されます。

タイトル: Enzymatic Stability of Myostatin Inhibitory 16-mer Peptides

著者名: Kentaro Takayama, Miki Odagiri, Akihiro Taguchi, Atsuhiko Taniguchi, Yoshio Hayashi

掲載巻号: Chem. Pharm. Bull. Volume 68 Issue 6 Pages 512-515 (2020)

Webサイト: https://www.jstage.jst.go.jp/article/cpb/68/6/68_c20-00158/_article/-char/en



- 本学の研究論文が国際脳研究機構 (International Brain Research Organization, IBRO) の機関誌であるNeuroscience誌のCommentaryで取り上げられ掲載されました。

本学の統合薬科学系と病態生理学分野他で取り組む「アルツハイマー病に対する細胞治療法開発研究」の最新成果が注目され、Neuroscience誌のEditorによるCommentary (解説・論評) で取り上げられ掲載されました。このCommentaryでは、本研究の始まりからその経過、そして今回の最新成果となる「治療細胞が既存の脳構成細胞の機能をも変化させ治療効果をもたらすというメカニズムの一端の解明」までが紹介されています。

Commentary

タイトル: The Role of TGF- β 1 in Promoting Microglial A β Phagocytosis

著者名: Jesús Avila

掲載誌: Neuroscience, 438, 215-216, 2020.

Webサイト: <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0306452220302384>



最新成果論文

タイトル: Mouse Bone Marrow-derived Microglia-like Cells Secrete Transforming Growth Factor- β 1 and Promote Microglial A β Phagocytosis and Reduction of Brain A β

著者名: Eriko Kuroda, Kaneyasu Nishimura, Shohei Kawanishi, Mari Sueyoshi, Fumitaka Ueno, Yumiko Toji, Naoko Abo, Toko Konishi, Koki Harada, Shiho Satake, Chiaki Shima, Yuki Toda, Yoshihisa Kitamura, Shun Shimohama, Eishi Ashihara, Kazuyuki Takata

掲載誌: Neuroscience, 438, 217-228, 2020.

Webサイト: <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0306452220302967>



- 生薬学分野の中嶋聡一助教が学術奨励賞を受賞しました

2020年6月26日に「日本生薬学会」において、生薬学分野の中嶋聡一助教が学術奨励賞を受賞しました。

受賞者: 生薬学分野 助教 中嶋 聡一

演 題: 神経新生による認知症の治療を指向した神経細胞分化促進作用物質の探索および開拓

- 公衆衛生学分野の松本崇宏助教が奨励研究賞を受賞しました

「日本薬学会 生薬天然物部会」において、公衆衛生学分野の松本崇宏助教が奨励研究賞を受賞しました。

受賞者: 公衆衛生学分野 助教 松本 崇宏

演 題: がん予防能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓

■ 本学で制作・公開した薬用植物紹介動画が読売新聞に掲載されました

本学で制作・公開した薬用植物紹介動画が読売新聞（2020年7月2日）に掲載されました。

京都薬科大 バニラやドクダミ

薬用植物動画で学ぼう

自宅から薬用植物園の雰囲気を感じてもらうと、京都薬科大（山科区）は初夏に見頃を迎える薬用植物を紹介する動画をインターネット上で公開している。

同大学は、2012年に実習のための薬用植物の見本園「御陵園」（約2700平方メートル）を山科区内に設置。庭園や温室で生薬のもとになる植物など約250種を栽培している。昨年5月の一般公開では1日で約1400人が訪れた。

動画では、香料になる「バニラ」や、解毒に使われていたという「ドクダミ」など8種を紹介。園の職員と教員による解説字幕付きで、植物が漢方などに使われてきたかを学べる。動画投稿サイト（<https://youtu.be/q6RSAMmFVGK>）で視聴できる。7月上旬には第2弾の公開も予定している。



バニラ（ラン科）
用途：薬用
用途：食品香料



現代では健康茶の原料としても使用されている。

読売新聞社
無断転載禁止
2020/7/6

■ 本学の受験生向けAIチャットボットが薬事日報に掲載されました

本学で導入した公式LINEアカウントから受験生の問い合わせに回答できるAIチャットボットが薬事日報（2020年7月1日）に掲載されました。

薬事日報

2020(令和2)年7月1日

受験生の質問にAI回答

LINEアカウントで開始

京都薬科大

は、受験生からの問い合わせに人工知能(AI)が自動で回答するサービスを開始した。AIが個別の質問に合わせた回答を、入試や大学に関する情報を会話形式で提供する。夜間や休日など、事務局の受付時間外でも対応できる。

今後、受験生向けのイベント周知や個別相談の申し込み受付など、入試広報の窓口としても活用を検討していく。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、オープンキャンパスなど対面形式のイベント開催が困難な中で、高校生にとって身近なLINEを活用して大学情報にアクセスしやすい環境を整えた。

掲載記事については本学ホームページよりご覧いただけます。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2020年6月～2020年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（五十音順）＞

伊倉 義隆

高取 京子

森田 和子

鈴木 康子

松本 名美

＜卒業50周年記念募金（昭和46年卒業生）＞

石川 佳子
石野 孝行
鶴飼加代子
宇佐美順子
大東 久子
岡森 克充
尾崎 建一
尾田 幸夫
柿谷 均
川崎健太郎
川端 哲郎

川守 利彦
小島 康宏
小林 一信
清水 真弓
下川喜美子
仙頭 恵子
高林 好子
高谷 朝子
田和 理市
土屋美代子
土屋 勝

寺西 勝良
中谷 晶子
長濱 幸男
中村 節子
那須 浩正
前口精市郎
前田 雅子
松本 勉
真鍋登代子
三河 忠宏
村岡 宣子

山崎 裕子
山本 泰人
楊 瑞齡
吉田 維志
渡辺 恵子

＜企業・団体・一般＞

株式会社フジタ薬局

キノンビクス株式会社

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

高野 江里（課 長）

富永 重夫（職 員）

中谷 庄吾（課 長）

人見 裕司（理 事）

（2020年8月31日現在）



KPU NEWS No. 203 2020年10月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。